

# 開門調査の早期実現に向けて

諫早湾干拓事業検討委員会への説明

平成22年3月16日 佐賀県



# 有明海の再生に向けて

## 1. 佐賀県の基本方針

原因究明のための開門調査を求めています

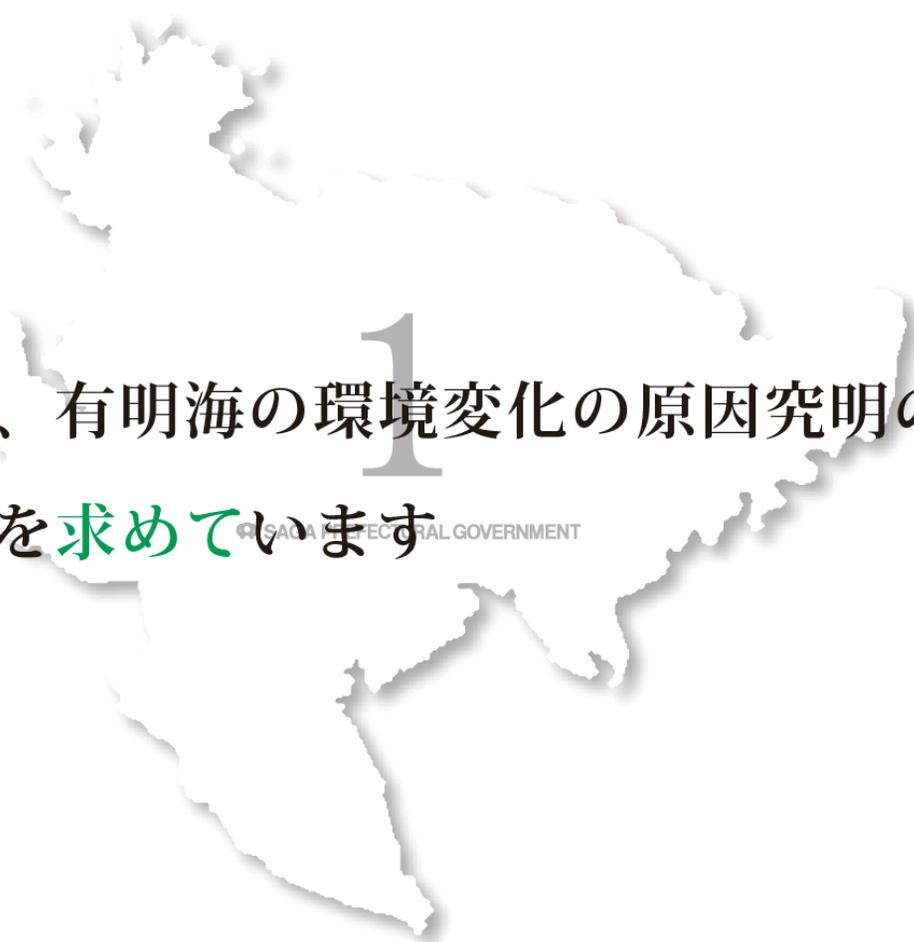
## 2. 検討委員会への期待

開門調査の実現につなげるための検討が行われることを期待します

## 3. 検討委員会への要請

検討委員会へ4項目を要請します



- 
1. 佐賀県は、有明海の環境変化の原因究明のための  
開門調査を求めています

# 諫早湾干拓位置



## 有明海の状況が変わっています

- 1 ) 赤潮・貧酸素水塊が増加・多発しています . . . . .   
( 環境劣化のスパイラル )
- 2 ) 漁業資源が激減しています . . . . .   
( ノリ養殖の不安定、貝類の激減、漁業者の厳しい生活 )
- 3 ) 漁業者が実感しています . . . . .   
諫早湾干拓潮受堤防の締切後に、  
( 潮流が変わった、底質・干潟が変わった、魚が育たない )

## 有明海の環境変化の原因究明に向けて

これまでの研究成果（大学、国、県）

### 【環境変化の要因】

- ・ 外海潮汐の影響（潮位上昇）
- ・ 地形改変による影響（干拓、埋立）
- ・ 陸域からの影響（土砂供給減少、栄養塩負荷）
- ・ 温暖化による気象変化（気温、海水温上昇）

定性的な解明まで

【短期開門調査（第1段階）】

得られた成果は限定的

定量的な解明が必要

中・長期  
開門調査  
（第2段階）

環境変化の原因について結論を！

## 中・長期開門調査の要請

- ☑ 佐賀県は、平成15年6月以降、有明海の環境変化の原因究明のため、中・長期開門調査が必要であることを、これまで11回にわたり国に提案してきました。  
〔直近：平成21年6月〕
  
- ☑ 佐賀県議会は、平成14年以降、中・長期開門調査を求める意見書や決議が、合計9回にわたって、いずれも全会一致で議決されています。  
〔直近：平成21年10月〕
  
- ☑ 佐賀県、福岡県、熊本県の漁連(漁協)は、共同で、これまで12回、中・長期開門調査の要請を国に行っています。  
〔直近：平成20年7月〕

中・長期開門調査は、一日も早い有明海の再生を願う  
漁業者や県議会、更には多くの県民の共通の願いです。





## 2. 佐賀県は、検討委員会に**期待**しています

 SAGA PREFECTURAL GOVERNMENT

## 検討委員会への期待

- ☑ これまで開門調査の実現は、なかなか進みませんでした。
- ☑ そのような中、赤松大臣が「開門調査の是非について政府方針案を1、2か月で出す」と発言されたことは、開門調査に新たな局面が開けたものと高く評価しています。
- ☑ 検討委員会は、開門調査に至る具体的な道筋を付けるものと期待しています。

佐賀県は、『検討委員会において「関係者の同意」につなげる検討が行われること』を期待します。

その中で重要なことは

開門調査について、関係者が持つ懸念(課題)を残さないこと！

そこで

関係者が持ついくつかの懸念に対して、

次のような代替策等を提案します



3. 佐賀県は、検討委員会に次のことを要請します。

 SAGA PREFECTURAL GOVERNMENT

## 検討委員会への要請

### 1) 政治主導による課題抽出と検討

関係県の代表者の意見を聞くことなどにより、開門調査を実施するための課題を抽出し、政治主導で検討を進めること

### 2) 解決策の明示と「開門調査実施」の方針決定

その課題に対する解決策を明示した上で、「開門調査を実施するという方針」を決定すること

### 3) 方針の遂行

方針決定後においても、開門調査の実施に向けて確実に取り組むこと

### 4) 情報の提供

検討委員会における議論の内容については、国民に対して広く情報を提供すること

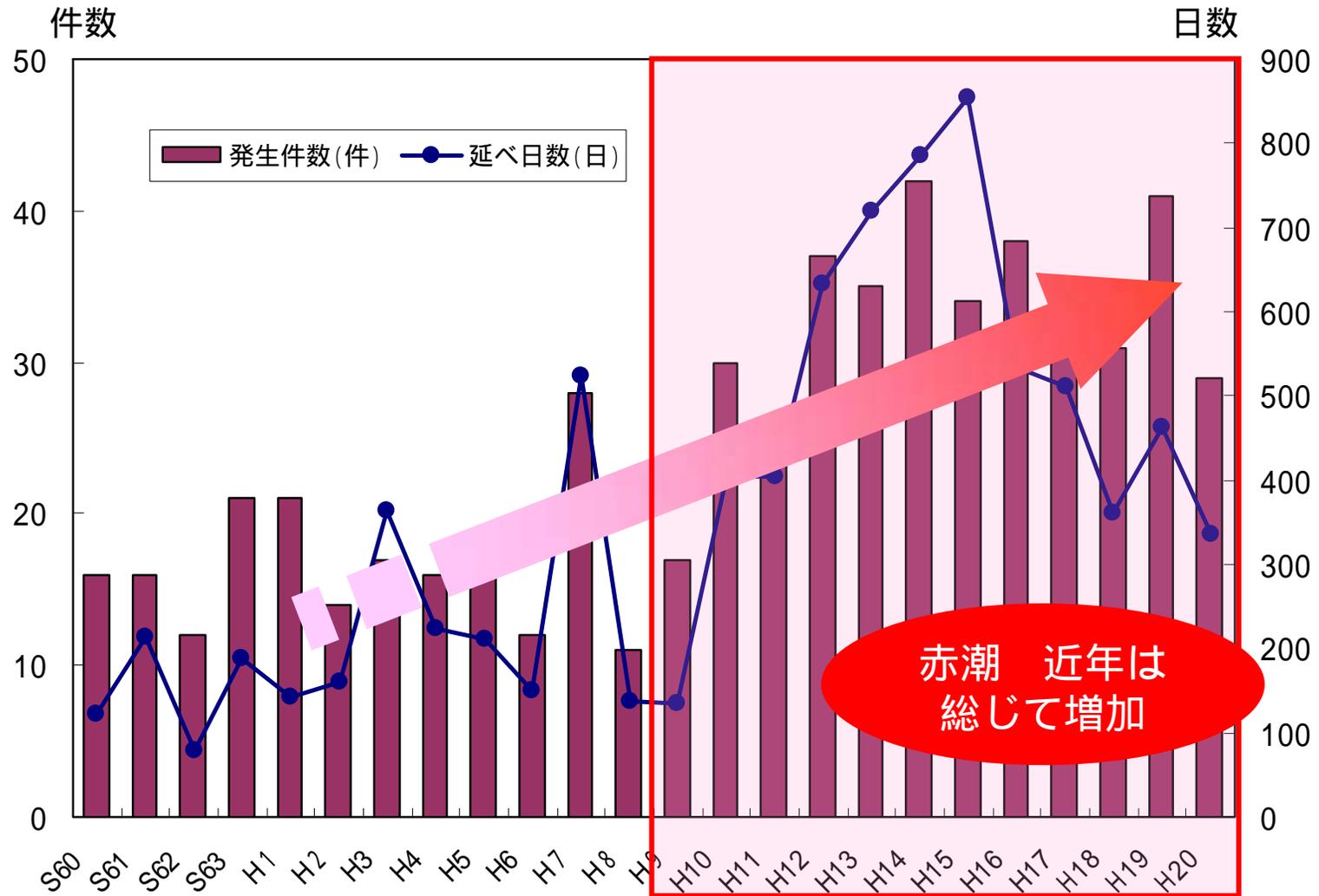
有明海の再生は皆の願いです。

開門の影響の代替策等に万全を期した上で、  
環境変化の原因究明のための開門調査の早期  
実現をお願いします。



資料：「九州の赤潮」（水産庁）より作成

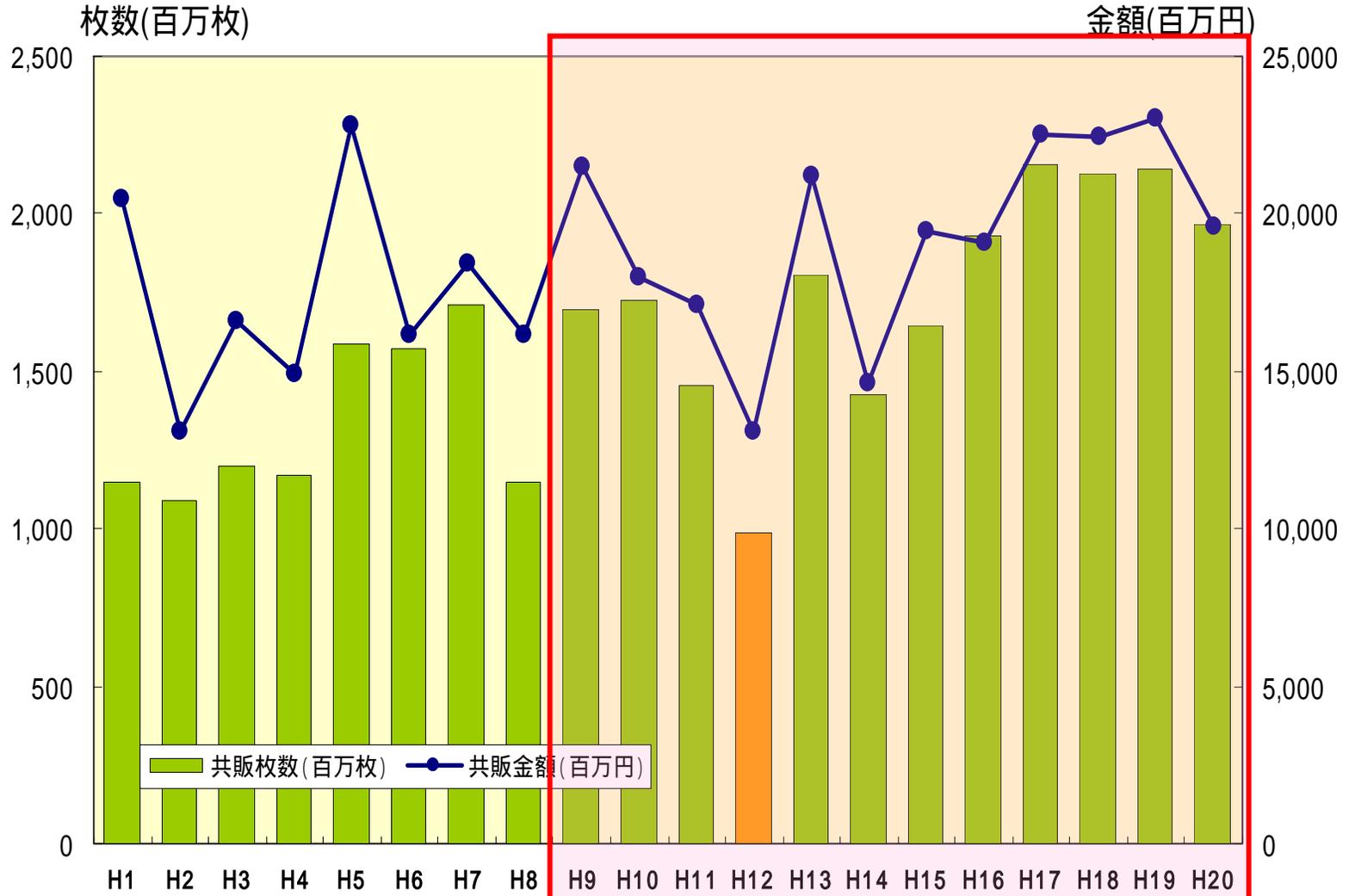
# 赤潮発生状況（有明海）





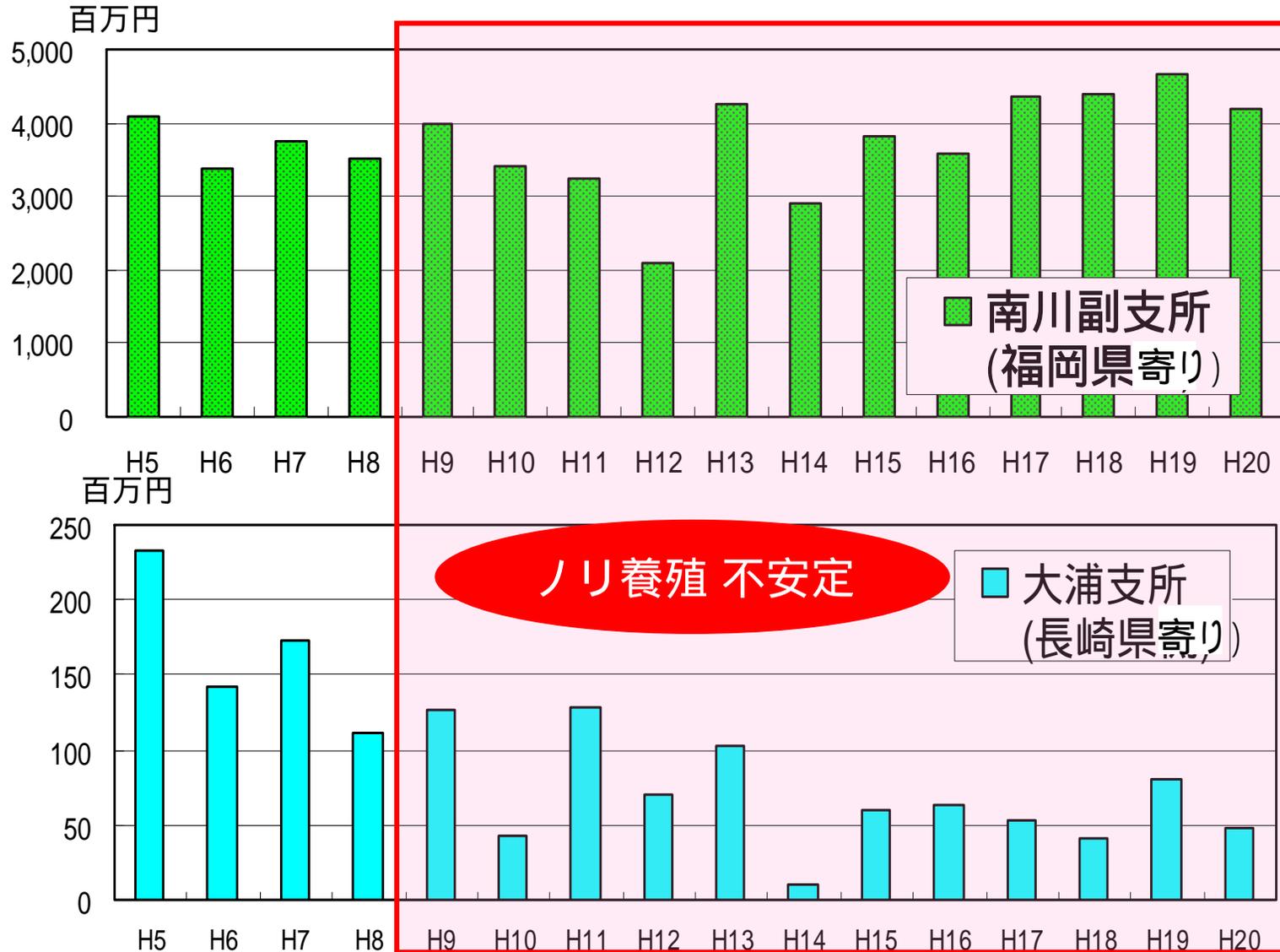
資料：「佐賀県有明海漁協年報」より作成

# ノリ養殖共販実績（佐賀県）



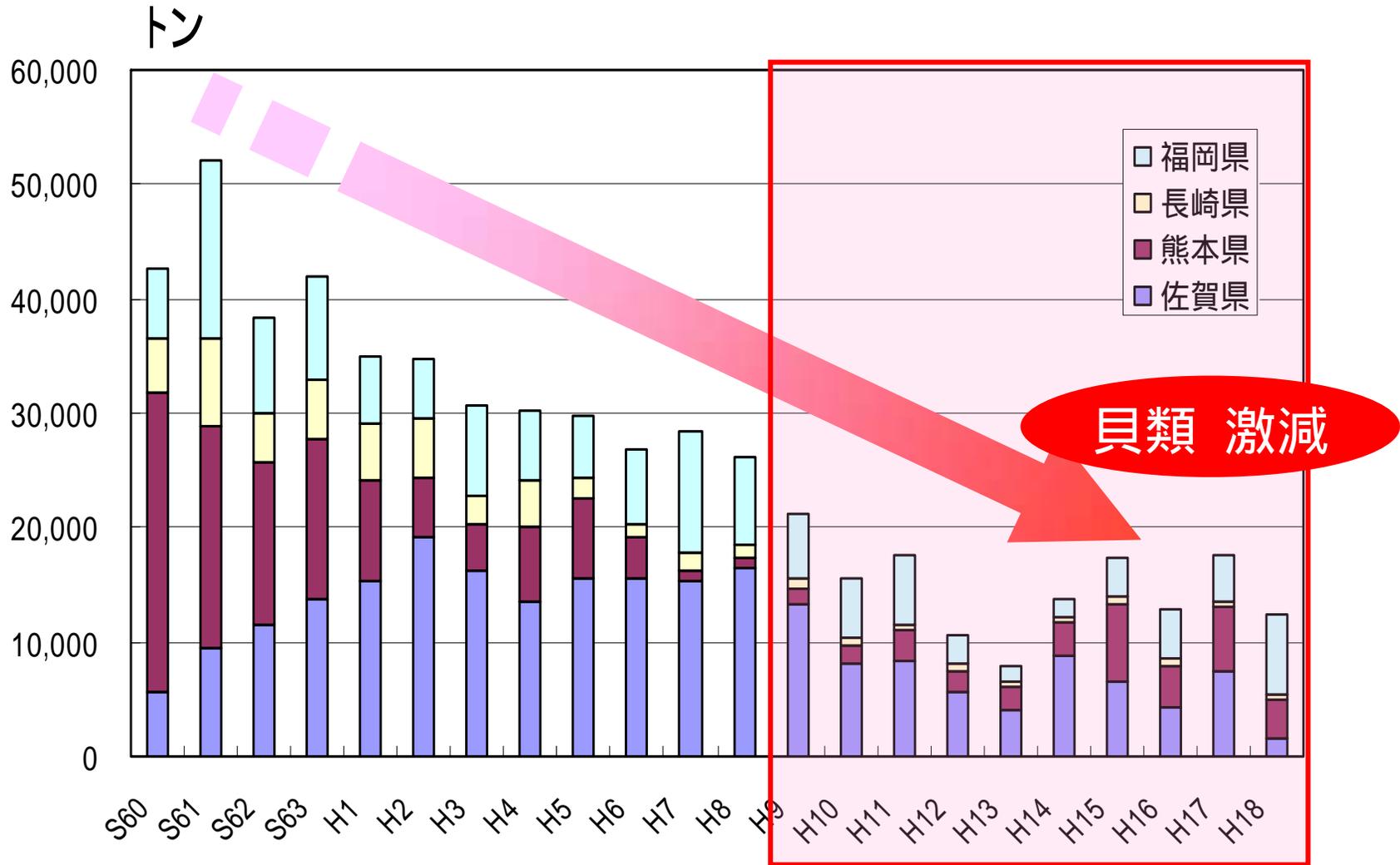
資料：「佐賀県有明海漁協年報」より作成

# ノリ養殖共販実績(支所別)



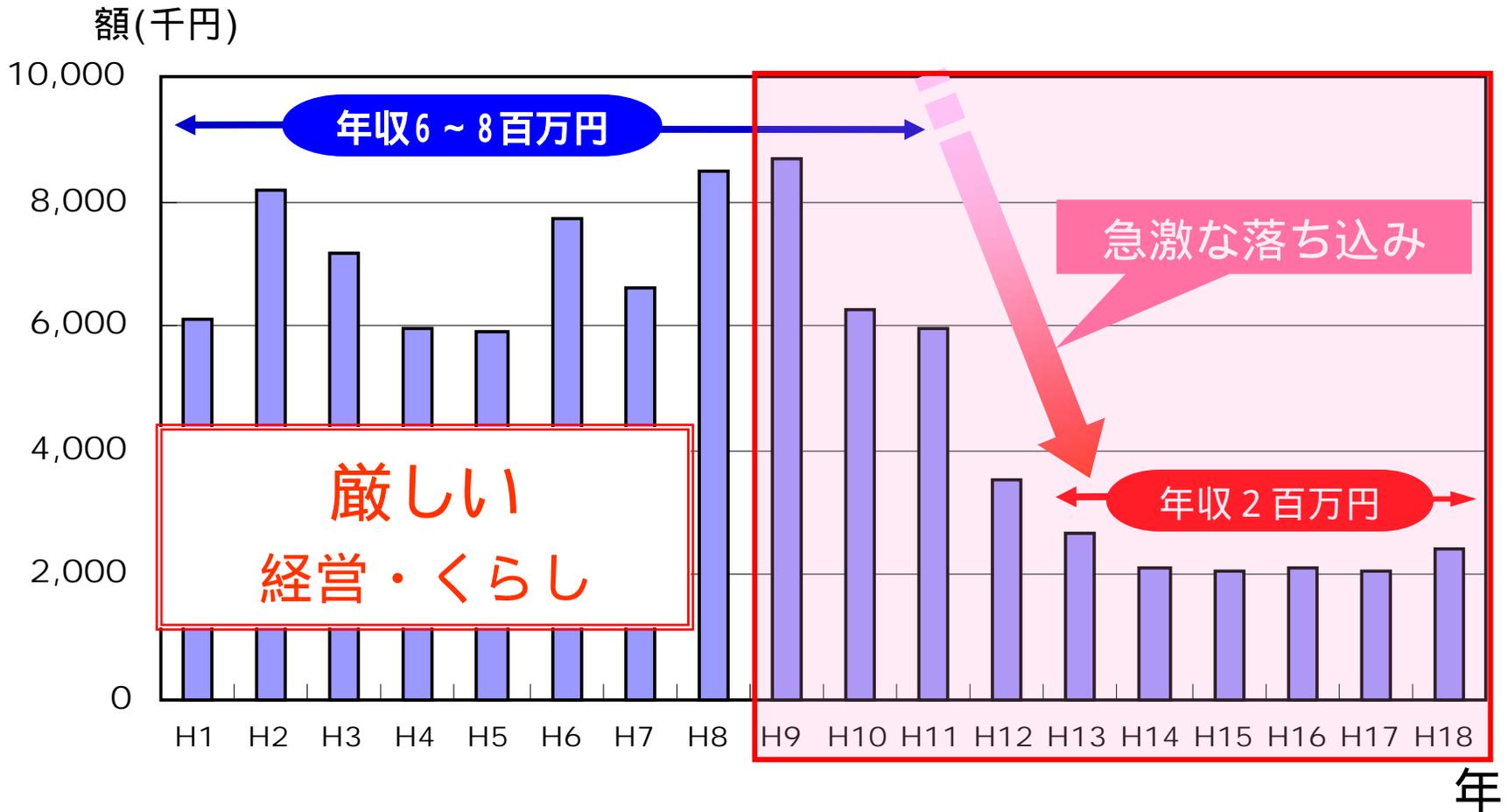
# 貝類漁獲量の推移（4県）

資料：「農林水産統計」（農林水産省）より作成



出展：「佐賀県有明漁協大浦支所資料」より作成

# 漁業者のくらし（大浦支所）



大浦支所の1経営体当り漁業生産額の推移

# 漁業者は実感しています

佐賀県漁業者ヒアリング調査結果〔H18年実施〕



## 潮流が変わった

徐々に弱くなり、堤防締切後、特に変化したように感じた。  
堤防締切後、潮流の向きが東から西向きに変化した。



## 底質・干潟が変わった

砂が減少し、泥がたまりやすくなった。  
硫黄の匂いがするようになった。



## 魚類が育たない

諫早湾付近で産卵するが、稚魚が育たない。  
全般に魚が小さくなった。



# 私たちは、こう考えます！

## 関係者が持ついくつかの懸念

### 懸念 1

かつてのように湛水被害が起きるのでは



排水ポンプ場を整備することで解決するのでは？

### 懸念 2

ガタ土が堆積して背後地の水路等からの排水が悪くなるのでは



(開門調査の期間中は) 浚渫による維持管理で対応可能では？

### 懸念 3

調整池の水を農業用水に使えなくなるのが心配



(開門調査の期間中は) 例えば、本明川などの河川水を貯める『ため池』を干拓地につくるなども考えられるのでは？

### 懸念 4

農地の地下から塩分が上がり塩害が発生するのでは



佐賀平野の干拓地では、このような塩害は起きていません！

